

# 富岡敬明

日野春開拓に尽力した明治の政治家

1822-  
1909

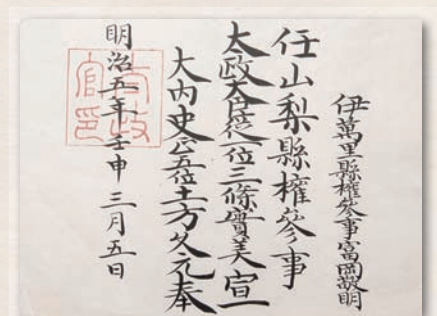


(北杜市郷土資料館提供)

佐賀藩の支藩、小城藩の藩士の家に生まれ  
明治維新を獄中で迎えた富岡敬明。  
新政府の高官として赴任した山梨で  
土肥・藤村両県令の補佐役として  
「大小切騒動」の收拾と日野春開拓に尽力。  
晩年、山梨へ戻り、漢詩壇で活躍した。



敬明が開拓に尽力した日野原(現・北杜市長坂町)に  
建てられた「日埜原碑」



山梨県権参事に任ずる辞令(個人蔵)

## 地方高官として頭角を現す

富岡敬明は、1822(文政5)年、佐賀藩の支藩、小城藩の藩士、神代利温の次男として生まれ、同藩士、富岡惣八の養子となった。

1842(天保13)年、藩主、鍋島直亮の側役となり、江戸藩邸の御留守居介役などを務め、将来を囑望される身であったが、1864(元治元)年、藩の将来を憂慮した有志が起こした太田蔵人成敗未遂事件に際し、首謀者として死罪を言い渡される。獄中で明治維新を迎えたが、1869(明治2)年、恩赦となり佐賀藩に仕えた。廃藩置県が行われ、伊万里県(現、佐賀県)の権参事に任じられ、明治政府の地方高官として頭角を現していった。

## 権参事として山梨へ赴任 「大小切騒動」の收拾を図る

1872(明治5)年3月、山梨県権参事を任じられ着任。その頃山梨では、山梨・八代・巨摩3郡の農民に有利な「大小切税法」の廃止をめぐる、政府・県庁と農民の対立が深刻化しつつあった。8月に廃止の告知がなされると、甲府盆地東部の住民6千人が武装蜂起し、県庁へ撤回を迫るといふ「大小切騒動」が起

こる。このとき、土肥謙蔵県令を補佐し、農民を説得するなど、対応に当たったのが敬明だった。土肥県令は一度は農民の要求を入れたが、軍隊の到着とともに要求を却下。3800人近くが罪に問われ、首謀者として2人が死刑となった。敬明は、処罰として犠牲者を出したことを後々まで残念に思っていたという。

## 日野春開拓に心血を注ぐ

1873(明治6)年、大小切騒動の責任を問われ罷免された土肥に代わって、藤村紫朗が着任し、県内の殖産興業に乗り出した。敬明は、日野原(現・日野春)の開拓を提言し、自ら責任者となった。退庁後、馬で日野原へ駆け付け、大声で激励する敬明を、開拓者たちは「敬明さん」と慕い、荒れ野を開墾して、桑、茶、ブドウなどを植え付けた。後年、この地には「富岡」の地名が付けられた。

また、1874(明治7)年に日野原に設立した養蚕伝習所へ、県内先進地から養蚕技師を派遣し、地元青年たちの定着を支援した。

## 西南戦争では熊本城に籠城 その後、三角港を建設

1875(明治8)年、敬明は名東県

(現、徳島県)権令の命を受け山梨を後にし、翌年には熊本県権令となった。当時の九州は、明治政府への不満が渦巻いていて、1877(明治10)年2月、西南戦争が勃発する。敬明は熊本城内に籠城し、西郷隆盛の軍勢の進軍を阻止した。



大正期の三角港。「明治三大築港」と称され、明治日本の産業革命遺産として世界遺産に登録された(宇城市教育委員会提供)

戦争収束後は、戦乱からの復興のため、旧制第五高等学校(現、熊本大学)の誘致、山梨から技術者を招いての製糸業の振興などに尽力。さらに、九州産の石炭を輸送するため、宇土半島の西端に三角港を建設、1887(明治20)年に開港した。

## 山梨を終の棲家に

1891(明治24)年、熊本県知事を退任し貴族院議員となった敬明は、この夫人と共に山梨へ移住する。

政界引退後、西山梨郡里垣村(現甲府市)に建てた洋風建築の私邸「双松山房」にて、漢詩集「雙松山房詩史」を刊行するなど、山梨の漢詩壇の中心人物として活躍した後、1909(明治42)年、88年の生涯を閉じた。



山梨近代人物館  
山梨県庁舎別館2階(甲府市丸の内1-6-1)  
第3回展示「近代山梨を築いた人々」  
期間：4月1日(金)～9月30日(金)  
開館時間：午前9時～午後5時  
休館日：第2・4火曜日/12月29日～1月3日  
入館料：無料  
TEL 055-231-0988 FAX 055-231-0991